

# 信州型コミュニティスクールを持続可能にする 地域連携校内コーディネーターの育成 —マネジメントの留意点から見る引き継ぎモデルアシストの開発—

徳永 吉彦 高度教職開発コース

キーワード：信州型コミュニティスクール 地域連携校内コーディネーター  
マネジメントの留意点 引き継ぎモデルアシスト

## 1. 問題の所在と背景

学校と地域は「パートナーとして相互に連携・協働していくことを通じて、社会総掛かりでの教育の実現を図っていくこと」(中央教育審議会 2015年12月21日)が重要である。とりわけ授業においては、地域連携実践の果たす役割は大きい。その地域連携の重要性を認識した自身の実践がある。2010年度の5年生社会科日本の米作りで、教科書を使い農家の工夫や努力の姿に迫った。しかし、子どもたちが学習後に書いた内容の希薄さから、切実感を持って学んだ実感からは程遠い学びであった。そこで2017年度に5年生社会科同単元において、地元でこだわりをもって米作りを営む農家へ焦点を当てた授業を実践した。農家と協働し、社会見学などを通して子どもたちは農家の具体的な工夫や努力の姿から、実感をもって語り出していった。地域連携の意義は、子どもたちの実感を伴った学びを生み出すことにあることが示唆され、地域連携が極めて重要であることを認識できた。

そこで、信州型コミュニティスクール(報告書参照)において地域連携実践を推進する上で、担任の時間的制約の問題などに対応するために、地域連携校内コーディネーター(以下「校内Co」と称す)を置く学校が増えてきた。しかし、校内Coに委任されても地域と学校を結ぶためのマネジメントの留意点が不明確であると共に、培ったものの引き継ぎの指針が定まっていないことが各学校で問題になっている。つまり1つ目は、マネジメントの資質・能力を理解できていない問題である。2つ目は地域連携を持続可能にするための引き継ぎの在り方に関する問題である。教職員の異動により、マネジメントの留意点や地域連携の意義にまで踏み込んだ引き継ぎが行われず、昨年度踏襲の表層的な教育活動に陥っている可能性がある。地域連携実践の型だけが引き継がれた場合、培われた地域連携の意義が伝わらない。このことはI小学校で校内Coを務める自身の問題と重なる。この問題の解決のためには、校内Coにおけるマネジメントの留意点の引き継ぎや地域連携の意義の共有は欠かせない。

## 2. 研究の目的と方法

学校のグランドデザインの基に、校内Coが実践を通して培ってきたマネジメントの留意点を分析・考察すると共に、校内Co引き継ぎモデルアシストを開発することを目的とする。

そのために実践事例を3つ抽出し、時系列に置き換えながら校内Coの関わりの系図を整

理し、実践事例の中で気づいた要因を抽出しながら、具体的な手立ての分析・考察を行う。また先進的な地域連携事業実施校への調査を基に、引き継ぎに関する留意点及び配慮事項等を記した、校内 Co 引き継ぎモデルアシストを開発し、実践を通して改善を図る。

### 3. 研究の実際

#### 3.1 校内 Co のマネジメントによる地域連携実践

I 小学校において、校内 Co の役割におけるマネジメントの留意点を分析・考察するために、特徴ある 3 つの実践を行った(表 1)。

表 1 I 小学校での地域連携実践

<p>(1)実践 1 「サツマイモを植えよう」(1 年・生活科)</p> <p>地域講師の B さんの話が多岐に渡ったため、子どもたちの集中力が散漫となる事態が生じた。授業者と地域講師の思いをつなぐ校内 Co による具体的な支援内容の打ち合わせが重要だと認識した。</p> <p>(2)実践 2 「裁縫学習」(5 年・家庭科)</p> <p>地域講師の D さんとの打ち合わせ会の前に授業者と校内 Co との懇談の時間を取り、D さんに求める支援内容を聞くことで、授業者は願いを言語化していった。校内 Co もその願いに共感し、打ち合わせ会で D さんへの伝達を補完した。これにより 3 者の指導観の共有が図られ、実際の授業につながった。</p> <p>(3)実践 3 「草木クラフトづくり」(特別支援学級・総合的な学習の時間)</p> <p>地域講師の F さんとの打ち合わせ前に、Co の声かけにより授業者と子ども観・指導観を語り合い、言語化していく時間をもった。打ち合わせ会では、F さんの抱く「信じて待つことで子どもたちは伸びる」という子ども観と授業者が言語化した子ども観がほぼ一致し、実際の授業支援につながった。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

実践 1, 2, 3 と進むに従い、校内 Co の行動と配慮によって、地域講師の支援の手立てが明確になった。このことから、学習活動における地域人材活用とそれを結ぶ校内 Co の役割に焦点を当て、実践事例の中で気づいた要因を抽出し、マネジメントの視点から分析整理した。このことから、1 点目として校内 Co のマネジメントの資質・能力として 8 つの留意点が明確になった(表 2)。2 点目として校内 Co のマネジメントの留意点を活かした地域連携実践の継続のために、持続可能となる引き継ぎモデルに向けて、更なる要素の抽出が必要となった。

表 2 校内 Co の役割におけるマネジメントの留意点

<p>①地域カリキュラムの構築 地域カリキュラム(報告書参照)を構築する。</p> <p>②情報発信 学校支援ボランティアへの応募情報などを先生方へ発信する。</p> <p>③接続 授業者の思いを受け止め、必要に応じて学校支援ボランティアと授業者をつなぐ。</p> <p>④校内 Co との事前協議 学校支援ボランティアと校内 Co が授業について打ち合わせを事前に持つ。</p> <p>⑤支援の言語化 打ち合わせ会前に授業者と共に、指導観・子ども観、支援内容について言語化する。</p> <p>⑥授業への意識の共有 学校支援ボランティアと授業者が直接会って話せる打ち合わせ会を設定し、指導方法だけでなく指導観・子ども観にまで踏み込んで意識の共有を図る。</p> <p>⑦具体的な支援の伝達 打ち合わせ会では、学校支援ボランティアにどこでどんな支援をしてほしいのかを授業者または校内 Co から明確に伝える。</p> <p>⑧課題の共有と次時への展望 授業後に、子どもの学びの姿を振り返る。校内 Co は学校支援ボランティアの支援の効果を意味づける。また授業者は学校支援ボランティアの感想を次の実践に生かす。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3.2 校内 Co（地域連携担当教員）の引き継ぎに関する調査

地域連携実践を持続可能にするための要素の抽出を目的に、先進的な地域連携事業実施校へ出向き、学校のグランドデザインの基に、培われてきたマネジメントの留意点や地域連携の意義の引き継ぎに焦点を当てた聞き取り調査を2校に行った。A小学校では、関係機関との調整などに重点を置いた引き継ぎを行っていた。前年度踏襲を基本とした引き継ぎであり、創意工夫をすることよりも今までの形を継承していく方針を取っていた。さらに前任者が起案した地域連携実践シートを作りファイリングすることに重きが置かれ、なぜその実践をやるのかが問われなくなっていた。

B小学校では、関係機関との調整などはデータの引き継ぎにより簡単に済ませ、具体的な実践上でのエピソードを通して、地域連携の意義の共有に重点を置いた引き継ぎを行っていた。実践を語り合う中で、学校の目指す子ども観・指導観を含めて打ち合わせをもつと共に地域連携実践を実態に合わせて更新することを確認した。また、校内 Co 自身が地域とのつながりに喜びを感じ業務に当たっていた。

この調査研究から、校内 Co の年度末引き継ぎにおけるA小学校及びB小学校の引き継ぎ重点の違いに焦点を当て、地域連携を持続可能にするための視点から分析整理した。その結果、校内 Co が留意すべき引き継ぎの指針として次の2つが明確になった(表3)。

ア及びイを留意すべき引き継ぎの指針とすることは、3.1 に示したマネジメントの8つの留意点のうち、特に⑥及び⑧に共通する。マネジメントの留意点と校内 Co が留意すべき引き継ぎの指針ア及びイはお互いに補完する関係にある。つまり、マネジメントの留意点と、3.2 ア及びイに示した引き継ぎの指針を合わせて、校内 Co 引き継ぎの3本の矢としていくことが、持続可能になるための引き継ぎの根幹をなすことが示唆された。

表3 校内 Co が留意すべき引き継ぎの指針

ア	実践上のエピソードを通して地域連携の意義の共有を重点とする引き継ぎをすること。
イ	学校の目指す子ども観・指導観の共有に焦点をおいた引き継ぎを行うこと。

また、3.2 ア及びイとマネジメントの留意点を引き継ぎの指針とすることで、校内 Co が地域連携の意義の重要性に気づくと共に、地域との連携の深まりにより主観的幸福感（報告書参照）が高まり、校内 Co 業務への意欲向上につながる可能性が示唆された。

## 4. 研究のまとめ

### 4.1 持続可能にするための校内 Co の引き継ぎモデル（引き継ぎの3本矢）

3.2 で考察したことをもとに、I小学校の実態に合わせて「校内 Co の引き継ぎモデル」を図1に示す。校内 Co1 と次に引き継ぐ校内 Co2 が年度末の引き継ぎの際に、地域連携関係資料の引き継ぎはデータ保存場所の確認等に簡略化し、引き継ぎの重点を地域連携の意義・子ども観・指導観の共有に置く（図1に示す「共有



図1 持続可能にするための校内Coの引き継ぎモデル(引き継ぎの3本矢)

部分」を指す)。具体的には、学校のグランドデザインを基に、誰のために何のために地域連携実践があるのかに焦点を当て、見直しの上に削減・改善し、必要に応じて新たな取り組みを付け加えてきた地域カリキュラムの背景の共有を図る。つまり、具体的な実践上でのエピソードを通して、地域連携の意義に立ち戻らざるを得ないところで考えを更新してきた校内Co自身の在り方にも触れていく(図1に示す「校内Co1自身の自己更新」を指す)。また、校内Coが授業者と学校支援ボランティアの間に入り、子ども観・指導観の共有を図るために3.1に示した校内Coの役割におけるマネジメントの留意点により進めた実践を例に挙げながらマネジメントの様子を伝えたと共に、資料としても校内Co2に引き継ぐ。

この引き継ぎにより、校内Co1が地域連携の意義や子どもの実態により、地域連携実践を更新してきたことが校内Co2にも共有されていく。これは、校内Co1が構築した地域連携の枠に囚われることなく、地域連携の意義や子どもの実態に合わせて、改善点を探る校内Co2の自己更新を自覚させるねらいがある。また、主観的幸福感、引き継いだり伝えたりすることではないが、地域連携の意義の共有の上に個人が抱く幸福感は、地域連携により教育効果が高まることにやりがいがあると捉える点で共通する可能性がある。

## 4.2 校内Co引き継ぎモデルアシストの開発

校内Coの業務や引き継ぎについては多くの教諭が悩んでいる。そこで4.1で示唆されたことを基に校内Co引き継ぎモデルアシストを作成した。I小学校での実践及び聞き取り調査からどの学校でも起こりえる校内Coが直面する30項目の悩みに選別した。研究から見出したことを根拠に、回答を示した。現場の悩みに即したQ-A方式で、汎用性のあるものとして1例を示す。

資料1 校内Co引き継ぎモデルアシストの1例

- |     |                                                                                                                                                                        |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Q29 | 年度末に引き継ぐことは多岐にわたり、校内Coの業務の引き継ぎに多くの時間はさげません。どんな工夫ができますか。                                                                                                                |
| A29 | 関係資料の引き継ぎは、データ等を整頓し簡略化しましょう。引き継ぎの中心話題を①実践上のエピソードを通して、地域連携の意義の共有に重点をおいた引き継ぎとすること②学校の目指す子ども観・指導観の共有に重点をおいた引き継ぎを行うことに重きを置くことで、校内Co自身が何のための地域連携実践であるかを重要な課題として実感することができます。 |

## 5. 今後の教育実践への提言として

校内Co引き継ぎモデルアシストの評価にまで研究が至らなかった課題が残る。今後実践を通して改善・更新し、校内Coの在り方に悩んでいる先生方に、その手掛かりとして渡し、活用できるようにすると共に、自身の校内Coの引き継ぎに生かしたい。また、地域連携実践の充実を一つの窓口として始めたことが、具体的に教職員間で関わり合うことにより、子ども観・指導観の共有へと深化していった。日々の実践につながっていく教師自身の自己更新が展開されていったことがより重要な意味を持つこととなった。

### 引用文献

- 1) 中央教育審議会(2015)。「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」。